

◆ 立川都税事務所長賞 ◆

「それぞれの目論見」

東大和市立第四中学校 3年 来栖 依花

「パパは国に貢献しているんだ。」

私の父はよくタバコを吸っている。だが、家にほとんどいないため、1日にどれくらい吸っているのかは不明である。半年に一回あるかないかの父の休日。久しぶりに家族で出かけた日。タバコばかり吸う父に「タバコ吸わないで。」と言った。このやりとりは毎回の事である。その時、母が「タバコなんてほぼ税金なんだよ。」と言った。タバコの税金は「消費税」ではなく、タバコそのものに含まれる「特別な税」だった。この話を聞いて、なぜタバコには特別な税があるのか疑問に思い、インターネットで調査したところ、この税金は「タバコ特別税」ということを知った。具体的な内訳は定価 580 円（20 本入り）の紙巻タバコ一箱あたり 357.61 円（61.7%）が税金である。予想以上に高かった税金に私は驚いた。タバコ税は「毎年約二兆という財源を確保する。」ことを目的とし、タバコの販売量が減少するたび、税率を上げている。タバコには依存性があるため価格が高くなっても購入を続ける人はいるため、安定して税を確保できているようだ。このとき、保健体育のタバコの授業を思い出した。タバコには沢山の有害物質が含まれており、その中の「ニコチン」という、タバコから自然に発生する物質が依存性のあるものだと教わった。タバコの悪い部分を生かして、税を確保しているのだと思うと、私は増々タバコが恐ろしくなった。

税は国にとって必要不可欠で、大切なものだ。しかし、タバコを禁止せず、売り出すことで人に害が及んでしまう。ある国では、「消費税 25%」、「国民の幸福度ランキング世界一位」で、日本の2倍以上の消費税を払うことで幸せな生活をしている。一方、消費税ひき上げは批判が多い。たばこ税は、消費者にとって娯楽を楽しむことができ、国にとっても安定した税を確保できるという点で双方にとって利益があるのかもしれないと感じた。それぞれ様々な立場、思いがあるため、一概には言えないことが難しい。

タバコ税について知り、考え、今まで「タバコはよくない」という自分の一つの考えから、他の考え方ができていなかったが、タバコの消費者からの視点、税を確保する国からの視点と、色々な立場になって考えることができた。これから私たちは大人になり、親元を離れ、自立していく。今まで払ってもらっていた税金も自分で払うようになる。大人になるために、今からでもできることはあるはずだ。「なんで払わなくてはならないんだ。」という一つの立場からだけではなく、様々な立場から違った見方をして、深く考えていきたいと思う。